

後付け容易な省配線型 総合監視・予兆センサシステム

マッチングの要望

希望マッチング先

- プラント業界、メンテナンス管理企業（特にIT系モニタリングシステム事業者）

- 社会インフラ（鉄道・道路・橋梁・ライフライン等）の保守・管理を行う企業・団体

- ソーラー発電に関する企業・団体（特にEPC事業者、保守管理事業者等）

マッチングメリット

- 電力供給ラインに信号を乗せることにより、後付けが可能で、かつランニングコストを抑えることが可能。
- 高耐久性のため、メンテナンスの負担を軽減することが可能。

開発したのはこんな技術です

- 従来の伝送端末装置は個別に電力供給を受ける必要があったが、本システムにおける同社の伝送端末装置「ローラン」は、**既存の電力供給ラインにおいて信号を送ることが可能**であり、省線化ならびにランニングコストの削減が可能に。
- 本システムは、同社が保有する省配線多重伝送技術と、大阪市立大学のセンサー技術を融合したものの。
太陽光パネルに取り付けた電流センサーからI2C通信にて「ローラン」に信号を送り、そこから直流電力の供給ラインに信号を乗せて**総合監視システムへ伝送する**という仕組み。
- 通常、1MWクラスの発電量を持つメガソーラーを監視する場合、太陽光パネルを直列に接続した“ストリング”単位で監視する必要があり、1MWあたり1,000万円の費用が掛かるといわれる。それに対して本システムは、**省配線多重伝送技術をベースにしているため、パネル単位での監視が可能であり、かつ従来よりも低コストで構築が可能に。**
- 本システムを用いることにより、**災害時等において電位のズレを計測し、山崩れ・土砂崩れを予兆したり、社会インフラの維持保全を管理したりすることが可能。**

★ おすすめのポイント

- 省配線装置「ローラン」を用いた本システムの、従来型の監視システムと異なる特徴は、以下の通り。
 - 既存の電力供給ラインをそのまま利用することができ、このラインを通じて信号を送ることが可能。**
 - 耐ノイズ性が高く、変電所等のパワーラインと併設が可能**なため、最短ルートでの敷設が可能。
 - 大阪市立大学が開発した電力センサーは、**非完全接触で電流値を計測可能**であるため、システムの後付けが可能であり、容易にモニタリングを開始することができる。

予兆センサとローラン



この技術を開発したのは…

企業名

豊中計装株式会社

所在地

大阪府豊中市

資本金

10百万円

設立

1976年2月

従業員数

12名

お問い合わせボタン

<https://www.yano.co.jp/contact/contact.php/consulting>